

令和7年度第1回広島高速道路公社入札監視委員会 議事の概要

開催日	令和7年7月30日（水）14：00～16：00
場所	広島高速道路公社 1階 会議室
出席委員	内田委員（委員長）、半井委員、桧崎委員
議題	議事1 入札及び契約手続の運用状況等の報告について 議事2 抽出事案について (1) 広島高速5号線温品JCT鋼上部工事（2工区） (2) 広島高速5号線料金所等新築その他工事 (3) 令和6年度広島高速道路交通量推計他業務 (4) 広島高速5号線関連施設再検討その他業務
抽出事案の 審議対象期間	令和6年10月1日から令和7年3月31日まで
審議・報告内容	別紙のとおり
委員会による 意見の具申等	いずれの審議案件とも適正であると認められました。
担当部署	広島高速道路公社 総務部総務課財務係 082-508-6848

報告内容

議事 1 入札及び契約手続の運用状況等の報告について

○ 入札方式別の発注件数は次のとおり

区 分	一般競争入札			指名競争入札			随意契約		件数 計
	件数	うち 総合評価	うち 低入札	件数	うち 総合評価	うち 低入札	件数	うち公募 型プロポーザル方式	
建設工事	6	5	4	0	0	0	0	0	6
測量・建設コンサルタント等業務	2	2	0	0	0	0	1	0	3
件数計	8	7	4	0	0	0	1	0	9

○ 低入札価格調査を行った件数は 4 件

○ 当初契約額の 30%を超える変更契約を行った件数は 1 件

○ 指名停止措置を行った件数は 2 件

○ 入札・契約の過程に係る苦情申立て、入札談合情報、入札・契約事務に係る働きかけ等については該当なし

報告内容	
議事 2 抽出事案について	
○抽出事案 1 広島高速 5 号線温品 JCT 鋼上部工事（2 工区）	
意見・質問	回答
○ 本工事の応札者が多くなった理由は。	● 本工事の規模の大きさや、中国管内の公共工事の発注状況の要因に加えて、共同企業体と単体企業のどちらでも入札参加を可能としたことに一定の効果があったと考えている。 設計金額が 5 億円以上の工事から共同企業体による入札を付すことができるが、競争性の向上を図るため、単体で施工できる企業があると認められる場合は、共同企業体と単体企業とを混合して参加させる入札を行うことができることとしている。 （建設第二課長）
○ 低価格入札資料の質問事項にて、資材購入先に協力会社と取引会社と記載があるが、それぞれの違いは。	● 協力会社は受注者と資本関係がある会社のことを指し、取引会社は製品等を低価格での調達先を確認するために区分して記載している。 本工事では、長年付き合いのある取引会社から低価格で資材の調達が可能であることを、受注者に対するヒアリングにおいて確認した。 （事務局）
○ 低価格入札案件において、技術者を追加配置させているが、公社はどのように工事の品質に関する確認を行っているのか。	● 受注者が提出する施工計画書と低価格入札資料の記載内容と照らし合わせるなど、品質確保のため、通常の契約から確認事項を追加している。 （建設第二課長）

報告内容	
議事 2 抽出事案について	
○抽出事案 2 広島高速 5 号線料金所等新築その他工事	
意見・質問	回答
○ 難易度の高くない規模の工事にもかかわらず、応札が 1 者となったのはなぜか。	● 技術者不足により応札ができなかったと推測している。 (施設整備担当課長)
○ 落札率が高かった要因のひとつとして、質問回答の閲覧の際に、自社の質問のみが掲載されていることによって 1 者応札を類推できる点を挙げていたが、なぜ類推できるのか。	● 入札手続きのうち、設計図書に対する質問への回答において、質問者の名前を伏せて、ホームページにより公表しているものの、質問内容の一致から 1 者応札を類推できる可能性がある。 (施設整備担当課長)
○ 競争性を確保するため、回答の方法について改善の余地はないのか。	● 回答内容によっては入札条件の追加や修正がされることがあるため、全ての社に対し、回答を同時に公表することによって、入札における公平性を確保している。 公共事業の入札においては、公平性・競争性の確保は最も重要であり、これらにより経済性も確保されと考えており、公表方法の運用変更の余地はないと考えている。 (事務局)
○ 過去の同様の工事と比較して、契約金額が上昇している要因は。	● 当時からの物価上昇率に比例して、契約金額も上昇していることが確認できる。 (施設整備担当課長)

報告内容	
議事 2 抽出事案について	
○抽出事案 3 令和 6 年度広島高速道路交通量推計他業務	
意見・質問	回答
○ 特定の 1 者ばかりとの契約とならないよう、競争性を確保する工夫の余地はないか。	● 中国管内における他団体の発注状況においても、同社が大半の交通量推計業務を受注しており、技術力の突出した 1 者が結果的に落札し続けている状況である。 公社における過去の入札の応札者数は複数の時もあり、一定の競争はされているので、発注者としての工夫は難しいと考えている。 (企画調査課長)
○ 入札参加者一覧表において、同住所の別会社が存在するが、資本関係の確認は行っているか。	● 親会社と子会社などの資本関係がないことを、入札参加条件として公告に記載しており、参加申請時に確認を行っている。 (企画調査課長)

報告内容	
議事 2 抽出事案について	
○抽出事案 4 広島高速 5 号線関連施設再検討その他業務	
意見・質問	回答
○ 本業務は避難口の施工方法の再検討と、シールドトンネル工事の設計の 2 つが、主たる業務内容であるが、避難口に係る費用は全体価格の何%なのか。	● 全体金額の約 25%であり、金額の相当性については確認している。 (建設第一課調整担当課長)